

未来への責任

49歳



すずきかずお
鈴木一夫

後援会のしおり

鈴木一夫の経歴

- 1969 (昭和44) 年11月生まれ (49歳)
出生地本籍 盛岡市東見前
- 盛岡市立仙北小学校、仙北中学校、花巻北高校、
法政大学文学部卒
学卒後、会社員、衆議院議員前原誠司秘書
- 2007 (平成19) 年より盛岡市議会議員 (3 期目)
建設常任委員長 (3 期目)
公共施設対策特別委員会委員長 (3 期目)
仙北 2 丁目自治会会長
仙北地区体育協会会長
盛岡舟っこ流し協賛会 事務局長
国民民主党岩手県連役員
- 現在は法人理事長
会社役員
- 趣味 旅行
海外77カ国178都市訪問、国内全市町村訪問

政策実現のための行動

全国の超党派の地方議員の皆さんと「交通議員連盟」を立ち上げ活動しています。

地方の鉄道やバス事業は、人口減少やクルマ社会の定着、人手不足から厳しい現状にあります。

高齢社会の到来で公共交通(タクシー含む)を福祉の視点で支えて行く必要性も指摘されています。

交通政策に関心を持つ全国の議員の皆さんと一緒に交通議員連盟を立ち上げました。

勉強会や国に対する政策提言、全国的情報収集を行っています。呼びかけ人の一人として講師役を担いました。地方の声が党派・会派を越えて届くための活動を継続します。



全国地方議員の前で交通政策の講師役

防災まちづくり

防災対策は盛岡市民の喫緊の課題。特に水害対策は、近年の豪雨や平成28(2016)年岩泉町他台風被害を教訓に再点検をしたいもの。地域の防災訓練や防災対策の強化について繰返し議論をしています。

洪水対策と内水対策の強化を訴えます。



防災訓練でのひとこま

市政に関するご意見・ご要望は下記まで

■後援会事務所

〒020-0861 岩手県盛岡市仙北2丁目23番24号

電話 019-635-8839 FAX 019-635-9176

Email aap09710@hkg.odn.ne.jp

ホームページ <http://www.suzukikazuo.com/> [鈴木一夫](#) [検索](#)

[Facebook](#)

[Twitter](#)

鈴木一夫の特集

市政の論点(2019)

3期12年間で48回一般質問に登壇。市政全方位の政策論争をしてまいりました。

現状の市政運営は、対処療法・イベント・バラマキ・ハコモノに大別され、都市戦略や長期構想が伝わってきません。私はその欠けている分野をしっかり議論し、市政を前へ進めることに努めてまいりました。

国や県は縦割りです。その縦割り(縦糸)に対し、納税者・生活者の視点(横糸)を組み合わせ面として、この面の厚みを増していくことが私の自治体経営に対する考え方です。

論戦をしてきた盛岡市政の課題について

1 2030年代着工予定の新盛岡市役所の場所と規模をどのようにしていくのか?

城下町盛岡のまちづくりは、まず城の位置をさだめ、次に寺町そして道路網の整備をしました。

江戸時代の城下町の建設には順番がありました。

盛岡市のまちづくりの核は、昭和40年代に完成した内丸官庁街が中心。しかしクルマ社会の浸透と人口増加から公共施設や商業施設、住宅街の郊外流出が続き、中心核が見えなくなってしまったのが現状の街づくりの課題です。

新市役所構想について、早期の公表を図るよう先頭にたって議会で質疑をしてきました。

場所の問題だけではなく内丸官庁街全体の再開発(1000億円規模)と医大跡地20,000㎡を2030年代に一括して再生するようなまちづくりを提唱しております。

老朽化をする内丸官庁街 一体の再開発を期待

- ◆ 盛岡市役所 (1962年 築55年)
- ◆ 岩手県庁 (1965年 築52年)
- ◆ 岩手県議会議員会館 (1965年 築52年)
- ◆ 国合同庁舎 (1961年 築56年)
- ◆ 水産会館 (1966年 築51年)
- ◆ 岩手医大(解体更地化予定 20,000㎡の土地)



新しい市役所のあり方について論戦を進めます

2 世帯人口の減少と高齢化

人口減少と地域維持について

高齢者世帯は30年で5倍、10,000世帯をこえ11世帯に1世帯が高齢者世帯です。加えて空き家は15%になります。高齢者・若年世帯の人口比が一定になれば地域は維持できます。課題は小学校や中学校学区を基軸とする若者定住促進計画が盛岡市に無いことです。

ここ15年間で4~5割人口の増えた地域(土淵・本宮)と、2割人口以上の減った地域(北厨、藪川)が存在します。人口増加地区では55億円の税金を学校の増築費に投入する一方、人口減少地区では6校が閉校し、全市的に見ると学校再編成に該当する1学年1学級の小学校は13校、空き教室は小学校5校分にのぼっています。2040年には人口247,000人現状より約17%減少が見込まれるからこそ、地域の維持を制度として示していくことが必要です。

年2000棟の新築需要を既存市街地へ誘導する「均衡ある発展」を提唱。成熟社会に見合った在宅サービスや町内会への物心両面での支援、電線地中化と景観力向上についても提唱しています。

これまでの活動について

■ 身近な問題を真剣に

生活相談から地域環境の向上、様々な困りごとに対応をしてまいりました。

待機児童対策や高齢者福祉、まちづくり、財政問題、産業振興策、教育振興で多くの提案を行いました。

市民の皆様のご要望と先進地視察を組み合わせ市政発展のための提言を続けます。



かわまちづくりのひとこま

実現しました

- 仙北町駅自由通路エレベーター設置
- 仙北地区活動センター大規模改修工事
- 市道「津志田・白沢線」矢巾町境までの着手
- J R山田線増発社会実験
- 町内会管理の「自立柱」撤去費補助
- 北上川舟運かわまちづくり

■ 1対37

議会の役割は、市民要望の反映・政策形成の働きかけ・行政の監視機能・予算決算の承認です。議会と首長は是々非々であるべきという姿勢に立っています。

採決では常に納税者がなっとくできるのかどうかを基準にしています。

例えば市議会議員の賞与(ボーナス)引き上げをへんだ議案には私のみ反対。1対37の採決結果でした。今後もこの姿勢を貫きます。



本会場での質問風景